

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	07_福島県
市区町村名	07322大玉村
自治体区分	都道府県

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
07322大玉村	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	高校卒業後、進学や就職のため県外(内)へ進出してしまう学生が多い中、村内にUターンする学生や社会人が少ない。	幼稚園、小学校、中学校の総合の授業の中で、学校と地域をつなぎながら、ふるさとへの郷土愛を育むことで、将来「村に戻ってきたい。」「この村で子育てをしたい。」等へ繋げられるような事業展開を図る。	幼・小・中異学年交流事業 「おおたまふれあいフェスタ」 ・各幼稚園交流 ・大名倉山登山 ・安達太良山登山 ・ミニ運動会 ・グラウンドゴルフ、昔遊び ・オリエンテーリング	令和7年度村地域学校協働本部事業アンケート集計結果を基に、「ふるさとへの愛着心を持つ」児童・生徒の割合80%以上を目指す。 (R3:77%、R4:79%、R5:90%、R6:79%)	令和7年度「地域学校協働本部事業」アンケート集計より、設問「自分が住んでいる地域が好きだ」の《とてもあてはまる》との回答の割合	79	%	80	88%	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた 毎年、村独自で行っている地域学校協働活動評価・検証アンケート集計の中で、「自分が住んでいる地域が好きだ」の設問に対して、88%の児童・生徒が「とてもあてはまる」との回答があり、本年度の目標値を8%も上回る結果が出ている。 この結果については、長年にわたっての協働活動事業の継続によるものであり、ふるさとに愛着心が持てる児童・生徒を今後も育てていきたい。	https://www.vill.otama.fukushima.jp/kyouiku_bunka/ootama_kyouiku/
07322大玉村	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	年々、学校支援ボランティアの高齢化や休止などにより活動する人員が不足している	令和4年度より、LINEを活用した学校からの要請のお知らせ等をボランティアへむけて発信している。携帯電話(スマホ)を活用しながら、若い世代にも身近に感じてもらえるような学校支援事業を行う。	学校支援ボランティア要請件数 R5:182件(R6.3月末) R6:213件(R7.3月末) 学校支援ボランティア協力者数 R5:延べ400名(R6.3月末) R6:延べ464名(R7.3月末)	学校支援ボランティア登録者数 R5:125名(R6.3月末) R6: 95名(R7.3月末) 学校支援ボランティア要請件数 R5:182件(R6.3月末) R6:213件(R7.3月末) R7:201件(R8.2月末) 学校支援ボランティア協力者数 R5:延べ400名(R6.3月末) R6:延べ464名(R7.3月末) R7:延べ434名(R8.2月末)	大玉村学校支援ボランティア登録者数	95	名	100	98名	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 学校支援ボランティアの人員確保については、登録ボランティアの高齢化による減少や呼びかけに対しての新規登録者が集まらないなど、例年課題となっている。今回の本年度目標値100名に対して、実績値は98名と下回る結果とはなったが、ほぼ目標値といえる結果が出ていると分析している。ここ数年は、児童・生徒の保護者が参加協力していただける環境が整いつつあるため、教育ポータルサイト等へ協働活動状況を掲載するなどして、広くPRを進めていきたい。	https://www.vill.otama.fukushimajp/kyouiku_bunka/ootama_kyouiku/